

## インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト  
西ガーツ北部の生物多様性保全と持続可能な生計支援  
現地からのお便り

2017年11月  
Applied Environmental Research Foundation (AERF)  
コンサベーション・インターナショナル

\* 本プロジェクトは、インドの地元 NGO である Applied Environmental Research Foundation (AERF)が実施します。

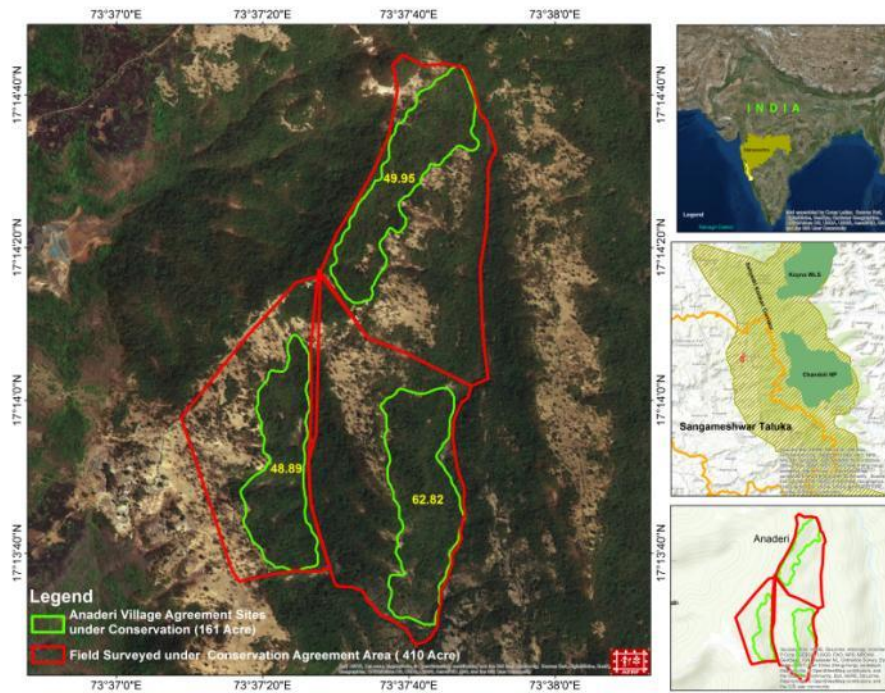
## 保全契約

サンガメシュワ地区のロワール、カタヴァリ、アナデリ、デグハルの4つの村で、10年にわたる保全契約が結ばれたコミュニティ保有林の広さは、計282エーカー（約1.1平方キロメートル）に達しました。保全契約はこれらの村々の57人の森林所有者に、直接的、間接的な便益を提供しました。森林の境界線を引き終え、保全契約に含められた森林地域が正確に分かるようになりました。

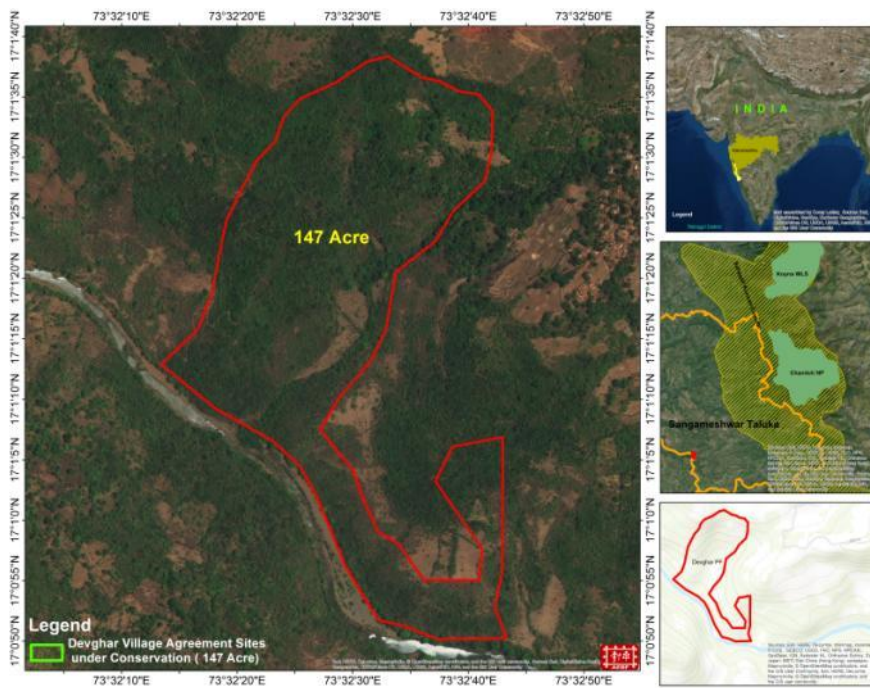


アナデリ村とデグハル村で保全契約に署名する森林所有者たち

以下に森林の境界線を示した2枚の地図をお示しします。



アナデリ村の保全契約に含まれる森林地域を示す地図



デグハル村の保全契約に含まれる森林地域を示す地図

## クルイ村の神聖な森の再生

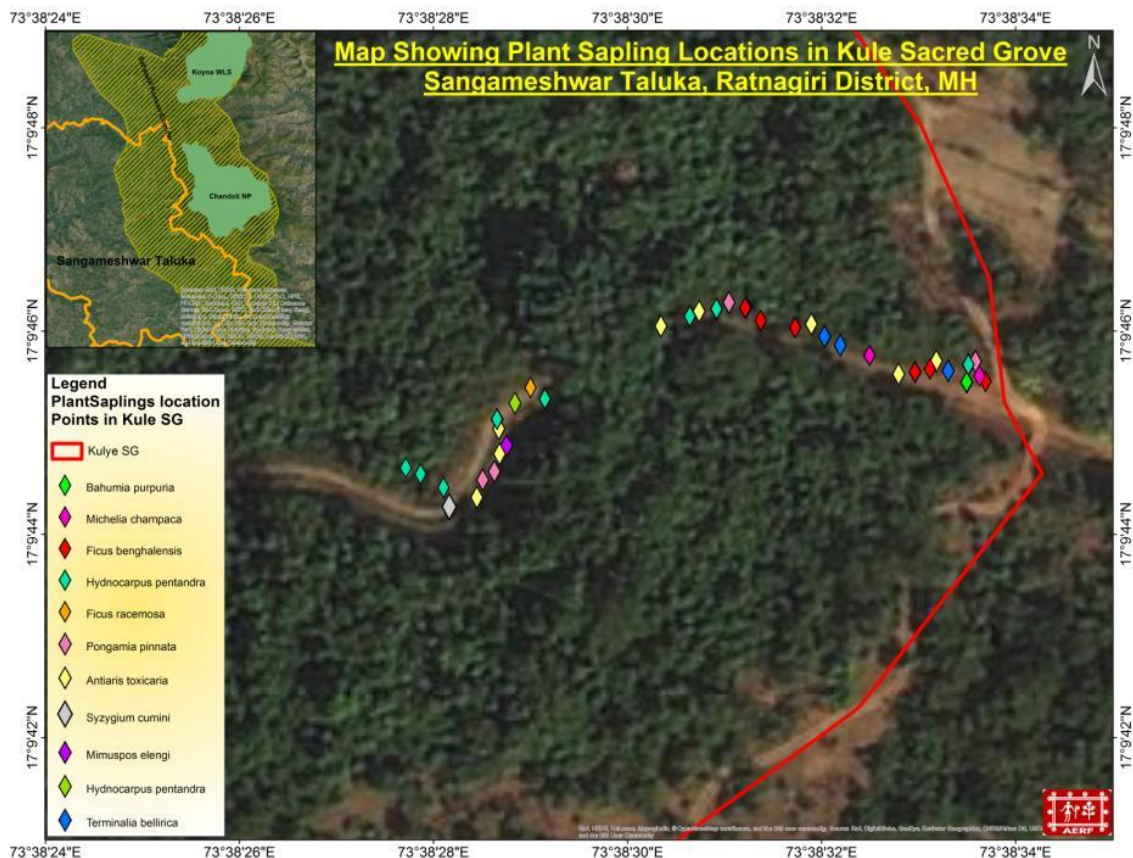
私達は 25 エーカー（約 0.1 平方キロメートル）にわたるクルイ村の神聖な森の回復に取り組み始めました。この神聖な森は保全価値が高い多くの樹種を育てており、サイチョウや他の野生動物に大切な生息地を提供しています。しかしその一方で、用水路の開発、牛の放牧、木材の収集による劣化に直面しています。AERF は、神聖な森を回復する必要性について話し合うために村人達とミーティングを開き、彼らはこの呼びかけに快く応じてくれました。私達は 7 月に、自生している地域固有の樹種の苗木を 55 本植えました。地元のコミュニティの人々とともに、The Earth Expedition India の生徒たちがこの活動に喜んで参加してくれました。



クルイ村の神聖な森にあるガジュマル (*Ficus amplisema*) の巨木 (左) とサイチョウの営巣地 (黄色の丸で囲われているところ) (右)



クルイ村の神聖な森での森林回復の作業



クレイ村の神聖な森に植えられた GPS で標識づけされた苗木の地図

AERF は、森林回復のための植林に加えて、植林した苗木の生存状況と植林地に隣接する土地での人の手によらない天然の苗の成長（天然更新）を把握するために、植林後の調査を行いました。5 フィート（約 1 メートル 50 センチ）以上の高さに育っていた天然の苗は、26 樹種の 350 本に上ることが分かりました。劣化に直面する神聖な森を保全することが生物多様性の回復にとって重要であることが分かります。

### 健やかな空気を生み出す森の役割についての能力開発

ダイキンのご支援で導入された改良かまどは、西ガーツ北部の森林に依存するコミュニティに対して、薪の収集による森林の劣化と料理用の薪の不十分な燃焼による空気の汚染について周知させ、能力を高めていくための素晴らしい道具であることが明らかになりました。

AERF 本部がある Pune の町にある業者に、かまどを 200 個作るよう注文を出しました。それによって、定期的に作業の進捗状況を確認でき、かまどがタイムリーに届けられるようになります。このうち、55 個のかまどが、サンガメシュワ地区にあるプロジェクトサイトで配布するために発送されました。

この四半期に、アンバヴァリ村のシメチ谷、ボワデ・カランバル・ダワデ谷の近くにあるバイン谷、ゲル谷、ヴァシ村、シェルケワディ(カタヴァリ村)、クレイ村のコカレ谷、サンガメシュワ地区のチャラケ谷で、かまどの実演を行いました。私達はニブ村で、割引価格でのかまど 2 個の購入予約を受けることができました。さらに、保全契約を結んでいるデグハル村の自助グループ

に対して、実演を通してかまどの使用を働きかけました。その結果、10月の第1週に、デグハル村の15世帯が割引価格でかまどを購入しました。



カタヴァリ村とデグハル村でのかまどの実演

### 森林回復のための苗木作り

森林で自然に生えてきた木の苗の収集は、自生する珍しい木を育てるための効率的な方法と考えられています。AERFは、セイタカミロバランやジャックフルーツ等の6種の自生種の計869本の苗木をモンスーンの季節に集め、コスム村にあるAERFの苗床で苗床用のポットに入れました。これらの苗木は、次の季節に植林場所に植えていきます。

### 保全契約アプローチの拡大に向けたフォローアップ・ミーティング

デヴァデ村チンチワルカル谷、アヒシティ谷、パル村、カディ・コルワン村、クンバール・カニ村、ニヴェ・ブドウルク村、オジャハール村、マチャル村、コスム村、パンノリ村、カルジュベ村という11の村々で、保全契約に関する意思決定を促すために、地元コミュニティやリーダーとのフォローアップ・ミーティングを開催しました。

地元コミュニティが提供した保全契約のための森林地域に関する情報に基づいて、AERFはこれらの森林の迅速評価を行いました。これにより、森林の正確な位置が明らかになり、森林の保全価値が理解できるようになります。カディ・コルワン村とカルジュベ村の生物多様性に関する簡単な調査報告書は、西ガーツ北部の私有林の生物多様性の豊かさを、部分的ではありますが伝えています。次の四半期には、これらの村々の多くで、地元コミュニティが保全契約を結ぶだろうと考えています。これらの村々で保全契約の検討対象となっている森林地域は約300エーカー（約1.2平方キロメートル）です。

### エピソード

AERFは、10月5日に、3年連続でフェアウッド認証を受けることができました。AERFが行っている非木材林産物の収集が、真に持続的で、収集と販売から生まれる収入が透明性が高く公平な形で配分されていることを示すものです。AERFが設立した民間企業であるNature Connectは、南アジア全体の中で唯一、フェアウッド認証を受けています。

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。